

平成30年度文部科学大臣表彰科学技術賞を受賞して

物質設計評価施設 廣井 善二

この度、研究業績「新奇超伝導体および量子磁性体の物質探索に関する研究」により、平成30年度文部科学大臣表彰の科学技術賞を受賞しましたので、その報告をさせていただきます。本賞は科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた者に与えられるものであり、4つの部門(開発部門、研究部門、科学技術振興部門、技術部門、理解増進部門)に分かれています。私が受賞したのは研究部門であり、我が国の科学技術の発展等に寄与する可能性の高い独創的な研究又は開発を行った者に与えられるものです。本年度は137件の応募があり、43件が選ばれました。このような栄えある賞を頂くことは大変な光栄であり、文科省の関係者の方々や選定委員会の先生方に御礼申し上げます。

授賞式は平成30年4月17日に文部科学省において、林芳正文部科学大臣のご臨席のもとに行われました。写真はその時のものであり、賞状と一緒に立派な盾を頂きました。不謹慎で済みませんが、当日ちょっと面白かったのは、林大臣が壇上でお話を始めると、周りのおじさん達が一斉にスマホで写真を撮り始めたことです。皆さん、お若い。さらに式が終わると、大勢が壇上へと列をなし、各機関の広報と思しきカメラマン達による写真撮影会が始まりました。私の写真はたまたま出会った知り合いとの相互スマホ撮りです。

さて、今回の受賞には応募当時に所長をされていた瀧川先生をはじめ多くの方々のお世話になりました。特に、総務係におられた竹山牧子さん(現在は新領域創成科学研究科人事担当)には申請書類を丁寧に査読してもらい、適確なコメントを頂きました。この賞のように対象が全学問分野に渡る場合には、専門外の人に如何にアピールできるかが重要になると思われます。その意味で、竹山さんのフレッシュな目を通して感じたことを率直に指摘してもらったことが受賞の大きな原動力となりました。感謝です。

この種の文章では受賞業績について書くべきなのですが、簡単にしておきます。要するに、1998年以前の京大時代とそれ以降の物性研での新物質開発を通して得られた成果を、合わせ技で評価して頂いたものと認識しております。その全てがこれまで研究室に在籍した学生さんとス

タッフの方々、および、一緒に研究を楽しんできた共同研究者によるものです。この場を借りて心から感謝します。私の寄与ははっきり言ってほとんどありませんが、居なくなると研究室が消滅するのでゼロでもありません。定年を迎える2026年3月まであと7年半となり、残された時間で何をすべきか、何ができるか思案中の今日この頃です。まあ、「適当」に頑張っていく所存ですので、今後とも皆様のご協力の程、何卒よろしくお申し上げます。

